研修だより

糸島市立一貴山小学校
平成２８年7月２１日（木）
学力アップ部

秋吉先生ありがとうございました！！

【単元名】町人の文化と新しい学問

【本時の目標】
〇蘭学とそれらに関わる人物の働きや関心をもち、進んで調べたことを発表することができる。
（社会的事象への関心・意欲・態度）
〇人体解剖図などの資料から、医学の進歩について様々な人々の努力や業績を考え、判断し、ワークシートの自分の考えを表現することができる。（社会的な思考・判断・表現）
〇解剖図や絵図の比較、解体新書のプレゼンの資料などを活用して必要な情報を読み取ることができる。（観察・資料活用の技能）
〇西洋からの新しい学問が起こったことがわかとともに、「解体新書」は様々な人々の力、特に、百姓や町人とは別に厳しく差別されてきた人の人も関わり、できあがったことが分かる。
（社会的事象についての知識・理解）

【本時の展開】

導入の工夫。クイズで想起します。

１　前時までの学習をふりかえり、本時のめあてを確認する。
クイズにより、学習の想起
２つの解剖図からその違いを考え、新しい学問とは何か考える。

めあて
「解体新書」はだれが、どうやってつくったのだろう。

２　人体解剖を行ったのは誰か考える。
外国の解剖図と比べながら考える
（１）どれが杉田玄白か考える。

資料を見ながら、自分の考えを書いています。

３「蘭学事始」を読み、疑問に思うことを発表し、みんなで話し合う。
（１）百姓や町人とは別に厳しく差別されてきた人の老人「虎松の祖父」が高い技術と知識をもっていたのはなぜか考える。
〇個人で考える。
〇グループで交流する。
〇全体交流
（２）玄白たちが、自分で解体できなかったのはなぜかを交流する。
〇個人で考える。
〇グループで交流する。
〇全体交流

グループで考えを交流します。

４　「まんがで読破　解体新書」の一部のプレゼン資料を見る。

５　本時学習のふりかえり
〇教師の話を聞く。

まとめ
　解体新書は、杉田玄白、前野良沢等が、百姓や町人とは別に厳しく差別されてきた人によって人体の解体するところを見ることができ、内臓の名前を教えてもらうことで、つくることができた。

分かりやすい漫画で学習内容を深めます。

【秋吉先生の自評】

本時の目標について
・目標①　調べ学習を生かして発表させることはできなかった。
・目標②　厳しく差別された人が、解剖に慣れていたとすぐにつなげることができた。（血・死が恐れられていたと前時までの抑えができた）
・目標③　長い年月をかけて、翻訳した人はすごいと振り返りで書いていた子どもがいてよかった。
・目標④　解体新書は、人が嫌がっていたことを、周りの人のおかげでできたと分かっていた。
・導入のクイズが少し長すぎた。振り返りまでいきたかった。

一目で、学習を想起できる既習図

【協議会で話し合ったこと】

一人調べはどのように行っているのか。
→ノートの左側に書かせている。
虎松はどんな差別を受けていたかをどのように教えたか。
→河原者・刀狩・身分制度と節目の学習を授業し、本時に至った。平安時代から、「血や死はうつる」という言い伝えがこの時代にも残っているというような流れで教えた。
解剖図を比べたねらいは。
→西洋の方が分かりやすいということに気付かせたかった。
保護者説明会では、歴史学習をどのように説明しているのか
→先人の工夫や努力を学ぶことで、自分の生き方につなげてほしいというようなことを伝えている。

☆差別された人々にせまったまとめが必要であった。また、まとめは、子ども達の言葉で作った方が良い。
☆解剖の挿絵を見せて、何で玄白たちが切っていなかったのかという疑問をもたせて、めあてに入った方が良かった。
☆差別されていた人々が生活を支えていた。今の自分たちの生活につながっているということを抑えておきたい。

【教頭先生のご指導・ご助言】

〇歴史学習を社会科の授業として見ると・・・
「先人の業績」本時では、虎松のおじいさんの解剖により、杉田玄白らが解体新書を完成させた。
〇「解体新書」が我が国の国家・社会の発展に果たした役割を自分の言葉でまとめさせたい。
〇調べたことや考えたことを表現するためには、根拠が必要。本時では「蘭学事始」をじっくり読ませて、根拠をつかませたかった。
〇社会科の学習では、歴史的事象の中で重点的に扱うものと関連的に扱うものを明確にして時間のかけ方に軽重をつける。
〇主体的に学習させるための工夫としては、「なぜ」を大切にする。「なぜこの人を調べるのか」を立ち止まって考えさせる。
〇人権教育の目標は、自他の人権を守るための実践行動がとれるようになること。
〇指導者として問われるものは「人権感覚の高揚」である。

秋吉先生お疲れ様でした☆
「節目の学習は流れが大切である」と力説され、室町時代・刀狩・江戸時代の身分制度と流れを大切にされながら６年１組で授業をしていただきました。その結果、子ども達の思考もつながって、既習を想起しながら本時に臨むことできました。また、「Ｉスタイル」（導入の工夫・展開の工夫・終末の工夫）に沿った授業もしていただきました。子ども達の興味をひきつけるようなクイズ・資料・プレゼン等、どれも分かりやすいものでした。また、教頭先生からのご助言で「教師の人権感覚の高揚」ということを痛感させられました。「自分の感覚は正しいのか」と見つめなおしながら、常にアンテナを高く張り、研修等を通して更新していく必要があると思います。